

国土交通省の「住生活基本計画(全国計画)参考資料」によると、20歳代は「親と子供世帯」が40%以上ですが、最も新築着工数が多い30〜40歳代になると表・1のように、3世代同居や親世代との近居の選択が60%を占める方に変化します。

住宅取得の若年化と祖父母同居の増加!

最も多い、建て主世代(30〜40歳台)が考える、理想の家族の住まい方。

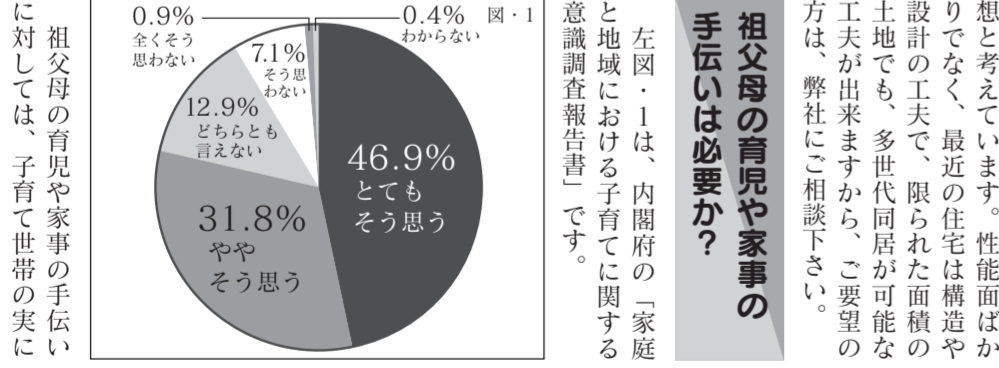


発行所 松本建設
 発行人 松下孝行
 編集責任 齋藤恭誠
 ■本社
 〒891-0108
 鹿児島市中山1丁目14-29
 TEL 099-267-7594
 ☎ 0120-079-089

我が国の住宅は、これまで20年〜30年で建て替えられてきたが、近年の住宅は100年(2000年の長寿命を持つ住宅)が当たり前になってきました。それは度重なる震災による耐震性・耐久性の強化や住宅性能の高性能化により、長期に住み継ぐ事が出来る住宅に変化していることが、大きいと思われています。これは、今に始まったことではなく、都市の住宅は別として、戦前までの農村の住宅は、家族単位で住む事が当たり前で、現在も古民家として残る様な立派な住宅は、少なくとも3〜4代は、住み続けられる住宅を、何代もの人々の蓄財で建てられた住宅が残ってきたのです。

現代の若者がことさらに薄情になったわけではなく、戦後の寿命が短い住宅が、親子の同居を拒むような環境を親子の同居という方が真実だと思えます。

近年の住宅性能の進化は目覚ましいものがあります。特に効率的なZEH(ゼロ・エネルギー・ハウス)の実現を促すために、住宅性能は急速に高性能化しています。結露が防止できる環境は、住宅性能を格段に長くすることに成功し、今までのような20年程度で駄目になる住宅は、まともな工務店では、ほとんど建てられなくなっています。ただ注意しなければならぬのは、熊本大震災でも、震災後にどこからとも無く現れて、死肉をあげるハイエナのように、劣悪な住宅を建て、問題を起こしているメーカーも沢山あります。そのような「安かろう悪かろう」の悪徳メーカーも、まだまだありますので、そのような



左図・1は、内閣府の「家庭と地域における子育てに関する意識調査報告書」です。

祖父父母の育児や家事の手伝いに対しては、子育て世帯の実に46.9%が「とてもそう思う」

30歳代は子育てのサポートが必要となり、40歳代では、親世代の老後を考える必要から、現実的な選択として家族と祖父母との、近居や同居が選択肢となっていることが判ります。

現代の若者がことさらに薄情になったわけではなく、戦後の寿命が短い住宅が、親子の同居を拒むような環境を親子の同居という方が真実だと思えます。

近年の住宅性能の進化は目覚ましいものがあります。特に効率的なZEH(ゼロ・エネルギー・ハウス)の実現を促すために、住宅性能は急速に高性能化しています。結露が防止できる環境は、住宅性能を格段に長くすることに成功し、今までのような20年程度で駄目になる住宅は、まともな工務店では、ほとんど建てられなくなっています。ただ注意しなければならぬのは、熊本大震災でも、震災後にどこからとも無く現れて、死肉をあげるハイエナのように、劣悪な住宅を建て、問題を起こしているメーカーも、まだまだありますので、そのような

左図・1は、内閣府の「家庭と地域における子育てに関する意識調査報告書」です。

祖父父母の育児や家事の手伝いは必要か? 46.9%が「とてもそう思う」

近居の明確な定義はありませんが、車で30分以内の距離に親子世帯が住むことを指す場合が多いようです。

同居や近居が目ざされているのは、子育て世代の子育てに関する不安などもありますが、最も大きな原因は、夫婦二人のゆとりな生活が、子供が生まれた事による、経済的な変化や負担の増加にもあるようです。夫婦共働から、妻の方が仕事を失うケースも多く、家計の負担が増えるのに、収入が激減する訳ですから、一挙に経済的な生活苦が始まります。



近居の明確な定義はありませんが、車で30分以内の距離に親子世帯が住むことを指す場合が多いようです。

同居や近居が目ざされているのは、子育て世代の子育てに関する不安などもありますが、最も大きな原因は、夫婦二人のゆとりな生活が、子供が生まれた事による、経済的な変化や負担の増加にもあるようです。夫婦共働から、妻の方が仕事を失うケースも多く、家計の負担が増えるのに、収入が激減する訳ですから、一挙に経済的な生活苦が始まります。

近居の明確な定義はありませんが、車で30分以内の距離に親子世帯が住むことを指す場合が多いようです。

同居や近居が目ざされているのは、子育て世代の子育てに関する不安などもありますが、最も大きな原因は、夫婦二人のゆとりな生活が、子供が生まれた事による、経済的な変化や負担の増加にもあるようです。夫婦共働から、妻の方が仕事を失うケースも多く、家計の負担が増えるのに、収入が激減する訳ですから、一挙に経済的な生活苦が始まります。



中山展示場Ⅲ 公開中!



中山展示場ⅢはHEAT20の断熱性能G2レベル5・6地域基準で建てられ、屋根形状はパラペットの四角形状で、2020年の「省エネルギー基準」の義務化に対応する高性能住宅です。現在の省エネルギー基準と比較すると約2倍以上の断熱性能があります。これから始まる住宅の高性能化時代に先鞭を付ける、画期的な展示場です。季節の移り変わりに是非、この展示場をお尋ね下さい。寒さや暑さを感じる事なく、いつでも快適で爽やかさを感じて頂けるはず。尚、展示場Ⅲ・Ⅴでは、ISO(国際基準)のPMVの測定で、快適性を測定し、本物の快適性をご来場の皆様に体感していただく予定です。皆様のご来場を心からお待ち申し上げます。



中山展示場Ⅴ 公開中!



中山展示場ⅤはHEAT20の断熱性能G2レベル、7地域基準で建てられていますが、現状の省エネ基準の2倍弱の性能があります。屋根形状は三角形で、ZEH(ゼロ・エネルギー・ハウス)対応型にしました。2020年までに松下建設が建てる住宅の半数がZEHでの建設予定です。住宅性能が高い分、太陽光発電システムの搭載を最少に出来ること、最も電力消費の大きい、暖冷房コストも抑えることが出来ます。これから住宅に求められる省エネルギーとEV(電気自動車)などの燃料エネルギーを住宅が創り出す、創エネ時代の魁となる展示場です。住宅の快適性を最大限に高め、未来の生活スタイルを先取りした最先端の展示場を是非、皆様で体感して下さい。



加世田展示場 公開中!



加世田展示場は将来、ZEH(ゼロ・エネルギー・ハウス)の為に太陽光パネルが取り付けられる様に大屋根構造になっています。また、新しく開発された新型暖冷房空調システムが取り付けられており、夏も冬も低温空調による省エネルギーで快適なシステムが稼働する予定です。平屋感覚の住宅ですが、屋根構造を活かして一室だけ2階に居室が設けられています。大きな開口部と大屋根の今までの加世田にはない全く新しいコンセプトで設計された住宅ですから是非、ご覧頂きたいと思えます。この展示場で新しい松下建設に出会えることと存じますので、ご家族の皆様でお越しください。心からお待ち申し上げます。



薩摩川内展示場 販売受付開始!



松下建設のHybrid eco-heart Q工法は、充填断熱と外張り断熱のW断熱工法です。外張り断熱には、遮熱シートが貼られ、住宅が蓄熱されるのを防ぎます。内側の充填断熱は外部の影響を受けにくいので、保冷材として室内の急な温度変化を防ぎ、また、気密性が高いので、室内の涼しい空気が必要以上に外部へ逃げていくのを防いでいます。松下建設が標準採用している第三種換気システムは、家全体の空気を動かし、エアコン一台でも温度差の少ない、快適な室内空間を実現しています。

住宅に関する資料等もフリーダイヤルにてご請求下さい。資料等をお送り致します。 ☎ 0120-079-089